磐城新聞

（廿五日夕刊）

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料（雜報欄行五十錢 場所指定二十錢増）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

如實の社會淨化
……淸き一票の價値……

鐵北童子

遂に議會解散となりまして、普通選擧第一場の幕が絞りあげられました。

正面上手下手をぶつ通した場面の大きさは、演者の科にも白にも、思ひ切つた活躍が訴されます。舞臺一杯に大見得を切れる演者得意は、一方から見てさる事ながら、それだけに他方からの演者自身に潜む苦心を諒とする點に於て、觀客も亦、眞剣でならない譯であります。

私等に與へられた唯一つしか持たない特權は、是等演者の中の唯一人をのみ、虎呼し得るに止まります。從つて容易くは與へられない、苟くも出來ない所の名指であります。當然に私等はこの貴重な特權に就て、嚴肅でなければなりません

人それぞれに雜多な思惑を以ての嚴肅が其處に保たれることでありませうが、私に私の踏分け慣た宗教の上から、この嚴肅味を考察して見ることにいたしませう。

議政壇上に送る選良の一人を指名する。その聲にだけでも、既に森嚴の響があります。苟且であつてはならないとして私はただ懸命に、社會の淸淨化といふことに思ひ當るのであります淸淨化などゝは、可なり言古るされた辭でありまして今更らしくもない如くでありますが、私はこれを最も新しく考へて居るのであります、即ち私は自分のこの一票を呈する上に、社會の淸淨化に資する尊敬する人としてのみ、行使します、此處に私の燃ゆる立つ國民觀念が具體します。

淸淨化に伴ふ所の、その到達した理想境の讃歎辭として佛國土、光明世界、瑠璃光世界、寂光土等、佛家によつて、くさぐさに稱へられてゐます、これを聞き初めた當初の私は、それが僧侶の口から洩れる場合に殊に多くの輕侮を感じ、それをあるべき世界とするに一顧の縁ともなりませんでした。

が、私の知見が拂陀の心海にいくらかなり直の觸れ方をし出したなと感じた時前の輕侮を漸くに悔初め次いで追々に、その理想境を思ふの空想でないことに感づきその精進としての社會の淸淨化が、人間の行持としてゐらねばならぬ所の日常であるを知りました、結局私等の一票を値打づける選良はこの資格に缺けてはならないのであります。

法然でも親鸞でも日蓮でも、その他の偉人高僧、も乃至大聖釋尊でも、夫等を超越した「佛」の境界に思ひを置かねばなりません。何となれば佛は一切の上に働く不思議不商量の力であります。時間を超越し空間を超越してゐます。餘す所なく漏らす所が無いのであります。

この觀念を自己に置いてそして更にこの佛の遺したそれから遺して行く靈地はと、恁う考へて見るべきもあります、既に一切の上に働く不可思議力ではありませんか。然らばその遺跡せう地は地上一切が佛の遺跡せう地であるのであります。時代は考へられず、地跡も亦限られないのであります地上一切が即ち社會であると知ります時に、佛を信ずる限り社會萬般がいつの場合にあつても私等の靈地であり遺跡となるのであります。

私等の生活がかくも饗される社會に當面し、その福祉を論議する選良の持つ抱負の第一義が社會の淸せうれたるべきは、日は暖に月は冷やかなるが如く當然さであります。佛であり佛であらばならぬ私等が絶對自由である各の尊い一票を投する前どうぞ此處に思ひを走らせて戴きたい。

明日の吉凶

舊曆一月四日　新曆一月二十六日

▲一白　目上の者の感情を損ひ易き日控目が吉▲二黑　姑息手段を採らず飽まで働きに依るべし▲三碧　思ひに耽れば身を焦がす位高きも驕る勿し▲四綠　打てば打たるゝ世の習ひ供きに居ふが安全▲五黃　多少の支障はあれど撓まず勵めば吉に向ふ▲六白　事を始むるに吉き但し急ぐことは愼むべし▲七赤　勞苦を積み報ひの我が身に廻り來る吉日▲八白　流言浮説に勵かさるゝ日新しき事は尤も凶▲九紫　四圍の感情を損せざれば次第に吉運と成る

講談　血で血を洗ふ　(240)

高橋掬太郎創作
布施半八郎挿畫

意外の二人

千世姫を捕へられたので四人の者も困つた、

「さあ、飽迄も刄向かふなら姫の一命は無いぞ」

と重太夫は槍先で姫の胸元をこすつた

「うーーむ」

と四人の者が唸つた

姫は此の時キツと顏をあげて四人の方を向ひ

「忠太郎殿を初め味方の方々、妾のことは決して心配なされまするな、妾がゐては却つて足手纏ひになりませうから、妾は此處で討たれまする故、各々方は思ふ存分に働いて父君の怨み晴しお家に仇なす惡人輩を討ち滅して下され」

と悲痛な聲を絞つて叫ん

しかし、四人の者は眼の前で姫を討たせる譯にはいかない、姫を討たせる位なら我が身に替へてと思ふ忠義の人々ばかりである。

「さあ、奸臣早間重太夫、主に刄向ふ大逆人、妾の胸を一突きに致たすがよい、何を躊躇するのぢや」

と重太夫を睨みつけて死を怖れぬ雄々しき叫び槍先を胸に突き出した

「うーーむ」

と重太夫も唸つた、姫を討つて何んにもならぬ、姫が胸を突き出すと彼は槍を引いた

「さあ、見事に突くがよい

と、姫は尚ほも身を起して胸を突き出した。此の時何處から飛び來つたか一筋の矢が重太夫の胸元を發止と射た

「あツーーー」

と叫んで重太夫は馬上に耐らず落馬した

「それツーーー」

と、躍り込んだ忠太郎が打ち蒐かつて重太夫の首を討つと、百姓らしい勢子が一人で來て一人が千世姫の繩尻を握つてゐる侍を斬り倒し、一人が姫の繩を蹴つた

「やゝツーーー」

と、又も驚く人々、重太夫が討たれたので後は進んで刄向かふ者もない、たゞ遠巻きにしてゐるばかりであつた

其處へ城の方から馬を飛ばして乘り込んで來たのが大狗の假面を冠つた怪人血刄の先に血汐の滴る首を突き刺して高く差上げながら

「やあ、一同の者承はれ大惡人なる本間昌康公の首級は斯く云ふ怪人が討ち取つたり」

と大音聲に呼ばはつて驚き騷ぐ人々の眞中へ、その馬を乗り入れて驅け廻つた

「おゝ、昌康公の首級を討たれたか拙者は早間重太夫を討ち取つた」

りと忠太郎が呼ばはつた

「たゞそれでは愈々本懷を遂ぐることが出來たるか」

と喜び勇んで怪人は忠太郎の前で馬を止め、天狗の假面を投げ捨てると、それは意外にも神部淸左衞門であつた

「やーー御身は御家老神部淸左衞門殿ーー」

と一同が呆氣に取られた怪人のために討たれたとばかり思つてゐた淸左衞門が生きてゐたのであつた。

「叔父上、御無事でござりましたか、拙者と同じ裝ひの怪人が叔父上であらうとは全く意外でござりまする

と忠太郎も喜んだ

其處へ、近づいたのは千世姫を助けた二人の勢子冠つてゐた笠を脱ぎながら

「淸左衞門、久しいのう」

と聲をかけた

「ねツーーー」

と呼び捨てにされて驚いて振り向くとそれは十八年の永い間、行方不明であつた本間成昌であつた

「おゝ、御主君ーーー」

淸左衞門は思はず馬から飛び降りた

「では、お父上樣か……」

と千世姫が取りすがつた

勢子の一人は下瀨主水であつた

廣告

磐城病院
平町田町通り
電話一一四番

御需めの方は
平白銀町
吉田新聞店へ
電話四十八

正確な体温器と寒暖計は親切な
山野邊藥店
平町五丁目角

藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

時計の進歩！遂に
振動不感の腕用時計を生めり
打付けてもたゝき付けても硝子も毀れず狂はない
側はクローム側にて小形です
TRADE MARK NIPPONOPHONE
平町四丁目
會田時計店
電話三六三

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切叮寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい
平町五丁目（釜屋横町）
須藤まつの

內科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

耳鼻咽喉科專門
入院隨時（自炊の便あり）
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

營業品目　絹糸、絹紡績　綿糸、染糸、組紐　漁網糸、人造絹糸　カタン糸、輸出用加工糸　眞綿、其他糸物一式
東京市日本橋區通油町
株式會社　藤掛商店
電話浪花三五一番
振替東京三三四〇番
糸界の羅針盤糸組通報御一報次第直送
小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方は磐城新聞社御出で下さい。委細面談

營業種目
內地材　材木各種、羽柄材各種　建築請負　諸材請負　礦山用坑木其他諸材請負
外材部　米松、米杉、大角製材調達請負　其他
㊀ 佐藤材木店
常磐線平町　新川町
電話三三五番

化粧くづれのない
固煉白粉
一　汗で化粧くづれにお困りの方は、是非ホシ美固練白粉をおつけ遊ばせ。
二　ホシ美固練白粉は、化粧くづれのない上にノリ、ノビがよく、化粧榮のする特徴を有つてゐます。
三　このホシ美固練白粉こそ、皆樣の御滿足を購ふことの出來る品でございます。
ホシ美固煉白粉

東京　星製藥株式會社　大崎

日東のラジオ
最新高級のラジオ製造販賣
並に部分品提供
ラジオ受信機販賣開始後僅カ一ケ月以內ニモ拘ラズ到ル處賞讃ト好評ヲ得候
重ナル御買上先
入山採炭株式會社殿　大倉無煙炭坑殿
平新川町 〇百材木店殿　平鍛冶町 岡田牛乳店殿
平田町 日本健築紙工業殿　平 鐵道官舍殿
玉露村 玉ノ井酒造店殿　平町 〇福商店殿
御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。
平町白銀町
日東商會
電話四二八番

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽淸
藥劑士　佐竹菊雄
內科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、

政友會公認候補に 滿場一致金成通氏を推薦 木村清治氏固辭して 廿四日の石城政友幹部會

石城政友會では昨廿四日午後一時から政友俱樂部に於いて幹部會を召集し總選擧に對する置要打合せ並に公認候補者 選衡を爲したが木村清治氏は固辭した結果萬場一致を以つて金成通氏を推薦した

詐欺の告訴 川部 武兵衛から

双葉郡長塚村大字長塚五番吉長女田村すゑ(三二)は大正十三年四月中浪江町すみよし屋事鈴木彌吉方に酌婦奉公中石城郡川部村生れ芳賀武兵衛に前借金二百五十圓を支拂つて貰ひ內緣關係を結んだが武兵衛は惡事を働き刑務所へ收容され昨年五月出所したところすゑは茨城縣平潟町貸座敷業津の國屋へ身を沈め間もなく逃走したことを知り武兵衛は浪江署へ詐欺の告訴を提起し

古證文を振り廻す 惡三百を退治 黑表に上つた二十名を 平署で近く檢擧

數御家の不景氣、都會と云はず農村乃至は官吏生活者といつたやうに全く臭い臭までしみ渡り中流以下農村、商工業者は全くみじめな

状態となつてゐる、

從つて各種階級の人々は取引上、關係や、古き貸借の債權者であるものは何とかしてこれを回收せんと努めてゐる、この空氣や世間の弱みを耳にした所謂惡三百の連中は數年の古證文や書類を買ひ集めるのである、たとへば五百圓の證書であつてもこれは民法の貸借上期間が經過してゐるとも或はすぐに全部になるにいふ口實を設けて二百圓とか百五十圓といふ極めて

少額で買ひ受けこれを正式の裁判沙汰として支拂ひ命令なり或ひは訴訟を起して全額に利子を加へて請求するといふやうな事で全く債權者即ち細民を苦しめるのである、是等の惡柄については平警察署では既に二十餘名のものに眼をつけ間斷なく行動を看守し黑表をつくつてゐるから近くこれ等惡三百を一網打盡に檢擧されるものと觀られてゐるが右について

警察當局 は左の如く語る

貸借の前後の手段として支拂ひ命令をかけるとか訴訟にするといふことは債權者の自由であるが、これ等裁判上の強制力を以て全く支拂ふ餘裕のないもの又は何日頃まで延期して欲しいといふものに對し脅迫がましき行動に出で或は權利者の代理といつて細民を苦しめる方途に出づる三百に對しては何うして看過するわけには行かない當署の黑表に上つたものは十八九名ある筈です檢擧の時といつて今から斷言出來ませんが近く行ふ筈です

一六銀行の帳場から 覗いた正月氣分 苦しかつた歲末と 景氣付いたお正月

庶民階級唯一の金融機關として何時の世にも重寶がられる平町地方の質屋に現れた昨今の舊正月氣分に就いて平町某質店に聞くと先ず近年は其の實際よりも第一一般が不景氣だ〳〵と不景氣を呼込んでゐるから增々不況の陷穽に落ちて仕舞ふんです、目下の處平町だけで同業が十三軒程あり此れに投じられてゐる資金は約十五萬圓見當ですが受出しよりは貸出しが多いのは仕方がないとして質流れが約二萬圓を數へるのですから私等の商賣も隨分苦しいものです、貸し出しも十圓以下が四割十圓以上が六割と言ふ割合で借り手を區別すると流石に時節柄だけに小商人が四割を占めて最高位次ぎが勞働者階級の三割、藝妓娼妓等の一割其の他月俸生活者等の二割見當と言ふ割合です、今年の正月はまさかに元日からの貸し出しもなく先ず今日あたりまでの狀態から見れば受出が非常に多いから幾分好況が訪れて來てゐる事だけは爭はれないでせう」云々と語つてゐた

二月市の 萬引捕はる 三井吳服店で

上遠野村大字瀧降藤信一郎(三三)は昨二日の買初めに一稼しやうと來平正午頃平町三丁目三井吳服店の店頭から甲斐絹一反を萬引したのを二瓶刑事のために發見され平署へ同行の途中同刑事の隙を見て逃…まで逃げ延び…來た同刑事…の末遂に逮捕…

…農會講話會

…二月六日…農事試驗分場…は來ち…會議室に農會講話會を催す事となつたが當日は稲田場長の「果樹の肥料に就いて」と題する講話ある筈で一般の聽講を希望すると

まさか阿母さんも 女郎になれとは生むまい 六〇六號 白檀油の 豐富な洗禮を受ける彼女等

□

千兩箱を山程積んでも、竹に雀のお殿樣にはそうたやくチヨンチヨン涉りをつけさせなかつたと噂のある高尾を先聲に持つ彼女達も時代の趨勢には勝ちがたい今は平均七十五錢の日給で源平藤橘ウント卷げの印半天御座い、ヨカ〳〵の朝鮮飴や御座いと、四民平等の博愛振りを發揮して、性病豫防と風紀犯防止を一手に引受ける免許營業者と化してしまつた。

鹽の專賣と煙草の專賣、とかく專賣とか官營とか言へば繁盛するに決つたおらが國でも昨今の不景氣風には半官の鮮銀、拓殖何れも樣かピー〳〵の風車なのに、之は又世間を他所の繁昌振「女なので」と今更ながらに感心させられる。

□

異性からは安價な玩弄物と重寶がられ、同性からは三世につながる仇敵と嫉視され、樓主からは物言ふ商品と取扱はれて、自分も恥とせず、嬌風會員を除いた世間樣も當然としてゐる彼女達の仲間にもピンからキりまである。……お職とは姉女郎株だ、頭梁株だ、顯で平女郎を使へる株だ、そして最も玉代を擧げたもの即ち成績優良……若し職務に忠實なるの許りを公平に表彰する縣知事なら當然紀元節に其選に入るべき素質を持つたものが任官する譯だ、獵官のためには血を吐く思ひの金を工面してカラ玉をつくれば、お客の財布の土用干も珍らしくないかくして一個のお職の裏面には彼女達の秘史も哀史も展開される譯だ。

□

六〇六號と白檀油の豐富な洗禮を受けて六ケ、年期を勸め上てもヤリテに榮轉したり、叩き大工や壁屋の後妻に轉任するものは成功傳中の人、大概は借金の滿身がつかぬで二度の勤めの一足間違へば無理心中の相手、赤い屍骸を鐵路にさらすか、猫イラズの滿喫に有明鳥の餌となるといふ末路莫逆兩親は「娼妓になれ」とて產み落した譯でもなからうが、サテモ惠まれぬ星を握らされて娑婆に出た女達であるワイ……否「腕に働かねばならぬ女」の群であるワイ。

それも道理、とうに腰が拔けてるのだ、開花亭の花奕姐さんも惜しいことだた座敷ではエライお株になつたものさネ。

比佐、佐川兩派の衝突から 長老木田氏を擔ぐ 三派入り亂れて大紛亂の 石城民政黨

昨廿四日の石城民政黨總會は比佐前代議士擁立派と佐川源氏擁立の少壯派との正面衝突から遂に大紛亂を捲き起した既報の如くであるが更らに無氣力な比佐氏に飽き確實味の頗る淡い佐川氏說に喰ひ足りなさを感んじてゐる石城民政黨の領袖中には同黨多年の功勞者たる長老木田織江氏を擔ぎ一旗上げんとする者も現れるに至つたが前記二氏に比較して木田氏を取り廻く一派は殆んど同黨有力者を網羅してゐるから相當有力視され木田氏も多いに食指の動きつつある折柄とて今や民政黨は比佐派、佐川派、木田派の三派入り亂れての大紛亂を惹起するに至つた

本郡內の 海軍兵志願 檢査は來月

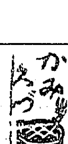
海軍省では目下本年度海軍志願兵の募集中であるが本郡今年度の割當は八十一名で本日まで各郡內町村に應募受付を了したものは約五十名に達してゐる尙志願兵の檢査は來る二月九、十の兩日舊石城郡役所に於いて施行される筈である

質のわるい 風邪流行 殊子供は注意

平町地方も舊正月に入つて一入の寒さを增してゐるが目下其處に質の惡るい風邪が流行してゐるので郡下各町村當局では衞生係りを督して此の豫防に努めてゐるが原因は舊臘からの氣候が激變したのに依る處は明らかで殊に「子供は風の子」とさへ言はれてゐる十二三歲以下の兒童に罹患者が多い點から餘程惡性なものらしく小供等の注意は勿論一般でも相當此れに注意して萬一風邪の氣味があつたら早速充分な手當をして欲しい」と平町當局では語つてゐた

極上玉を世話されて 一杯喰つた草餅屋 種のない手品を使つた 新川町の豐吉は御用

當時平町字新川町居住宮城縣伊具郡金山生れ無職岩倉豐吉(五九)は舊臘十二月中から極上玉の女を世話するからと僞つて平町二町目川岸通り飲食店柳屋から現金三十圓を詐く平町南町佐藤屋から現金四十圓を、更らに赤井村大字高萩孟宗館飲食店佐藤時成方から現金三十圓を各れも手付金だと詐取し何喰はぬ顏で自宅、潜伏中を平署のために探知され二十四日午前十一時頃二瓶刑事のために逮捕され目下嚴重な取調を受けてゐるが餘罪頗る多い見込み



●わし等に酒を飲ましたらモウ默目よ、醉つたが最後三味線などひけるかね……サア是からどいふもん段々脫線して行く……一體テメイ等が無理に酒を飲ましたから斯んなに醉つたんだ……グーブーと熟柿のやうな息を熾に發散して眼は既にトロンケンの居据り盤に密着してテコでも動かばこそ、

第三區から名乘を上げた 候補者の運動費 九千四百廿七圓弱と 廿三日縣報號外で告示

普選法施行の榮えある第一回の總選擧を眼前に今や逐鹿場裡に打つて出でんとする各候補者に對して縣當局は廿三日縣報號外をもつて次の如き法定運動費を告示した即ち此れに依れば當第三區(石城、双葉、相馬)の有權者七萬七百一名の有權者を三名の定員にて除したる數に四十錢を乘じた法定費は候補者一名に對し九千四百廿六圓八十錢で此の法定費以上一錢一厘たりとも出でたるものは選擧違反と爲る譯である

株式會社 磐城銀行

第六十四期 昭和二年十二月卅一日現在 貸借對照表

資産之部

諸貸付金	六、一九二、四六八、〇八六
他店貸及預ケ金	一〇八、九三二、七五〇
所有有價證券	五六二、二二二、八九〇
營業用及所有不動產	一三〇、五七七、三三〇
雜勘及本支店未達勘定	一五、六〇七、九二〇
現金有高	二七三、六九一、五六八
計	七、二八三、五一七、七五四

負債之部

資本金	七五〇、〇〇〇、〇〇〇
諸積立金	五三六、三九六、〇〇〇
諸預金	三、八六八、八七八、七五四
日本勸業及日本興業銀行勘定	一、九六六、六一〇
他店ヨリ借入金及コールマネー	一四八、三一七、五七〇
	二九九、〇〇〇、〇〇〇
再割引手形	一、五八一、六四〇、〇〇〇
未拂利息	一、四三二、四四〇
未拂利息及未經過割引料	五八、〇五〇、八六〇
預金稅金	一、九八一、四一〇
當期純益金	八五、八七四、一一〇
計	七、二八三、五一七、七五四

當案 準備金及利益配當案

一當期純益金	八萬五千八百七拾四圓拾壹錢也
法定準備金	金壹萬圓
特別積立金	金壹萬圓
行員退職給與積立金	金三千圓
役員賞與金	金參千圓
配當金	金武萬八千百二十五圓(年七分五厘)
後期繰越金	金參萬壹千七百四十九圓拾壹錢

右之通リニ候也

昭和三年一月二十二日

株式會社 磐城銀行

專務取締役 白井一郎
取締役 白井博之
同 木田織江
同 安島重三郎
同 山崎與三郎
同 諸橋久太郎
取締役支配人 草野順平
監査役 高岡唯一郎
同 小野晉平

平館隣り 御料理 鰻蒲燒 仕出し 魚榮 電話四二四番

生殖機能 腦病 神經衰弱 一回一錠 トツカピン

斯の如き人にトツカピンを推奬す
○遺精夢精で身體が弱わる人
○早老で神經性なる性交不能人
○過淫、手淫で頭がボンヤリ人
○記憶力減退し根氣の薄い人
○虚弱で元氣なく精力ない人
○男女性能缺乏感覺減少の人
○ヒステリーでイラ〳〵する人
○眠むくても眠むれぬ不眠の人
○精力と元氣と健康を欲い人

健康男女 精力の消耗補給と元氣健康の增進劑として常用せば或る何者か得た樣な云ふに云はれぬ心强さを體感す

三大改善
○內容增量＝稅法改正により一割以上二割增
○包裝改正＝世界的販路の見地より
○容器添付＝五圓以上ニツケ愛用者奉仕の爲ル製携帶容器付

藥價
三十錠 三圓
五十五錠(携帶容器付) 五圓
百三十錠(同) 十圓
三百十五錠(同) 廿圓

發賣元 東京市銀座新肴町八番地 振替東京七二二一番 丁子堂藥房 大阪市西區立賣堀北通三の九 振替大阪一〇八六番

登錄商標 釀造元 福島縣平町 山崎合名會社 電話(營業部一〇番 釀造工場二七番) 振替東京一九七五五番
東京支店 上野車坂町四三 電話下谷五七三二番 振替東京六八三二番

鐵筋コンクリート 鐵骨組立 和洋建築 文化式建築 設計監督
土木、建築、請負業 合資會社 丸三森川組 社長 大森鎭平
東京日本橋南茅場町二〇 電話茅場町66四五二番

釀造元 清世界 吉 銘酒 各炭鑛御用達
石城小名濱町 清水屋 小野晉平 電話六番

確實敏捷は久の生命なり
電話九番・一三九番 振替貯金口座東京一〇九五六番
諸橋久太郎
和洋銅鐵 金物問屋 久 釜屋商店
磐城セメント株式會社特約代理店
良品廉賣に勝る商略なし 磐城平町五丁目

外科專門 平南町 上田外科醫院 入院隨意(自炊の便あり) 電話一二九

電話開通 六四〇番を御利用下さい
平―湯本 平―四ツ倉 特に貸切は勉强致します
尼子自動車部 平町二丁目